

テーマ 「豊かな表現活動をめざした授業のあり方」

1 テーマ設定の理由

音楽の授業では、音楽の楽しさや喜びを味わわせ、音楽嫌いの子どもを生み出さないことを課題とし、子どもたちの個性や興味・関心に即した多様な音楽活動を心がけている。「自分の音楽性に気づき、そこから楽しく音楽に関わること、生きた音楽体験、自ら音楽することを持って自己表現をなしえるという体験を持つこと」

体験を通して得た感動や喜びが、生涯にわたって、音楽と関わり続ける原動力となり、その原動力が「豊かな心」につながるであろうと考える。音楽科の豊かな学びは、豊かな心を育てる音楽活動にある。そうした活動を取り入れた授業のあり方を音楽科として再考するため、このテーマを設定した。

2. 本年度の研究について

音楽科における「豊かな学び」とは、その大前提として、自分が関わった「音楽」が新たな自分の可能性を引き出すものであることを実感することであるととらえる。

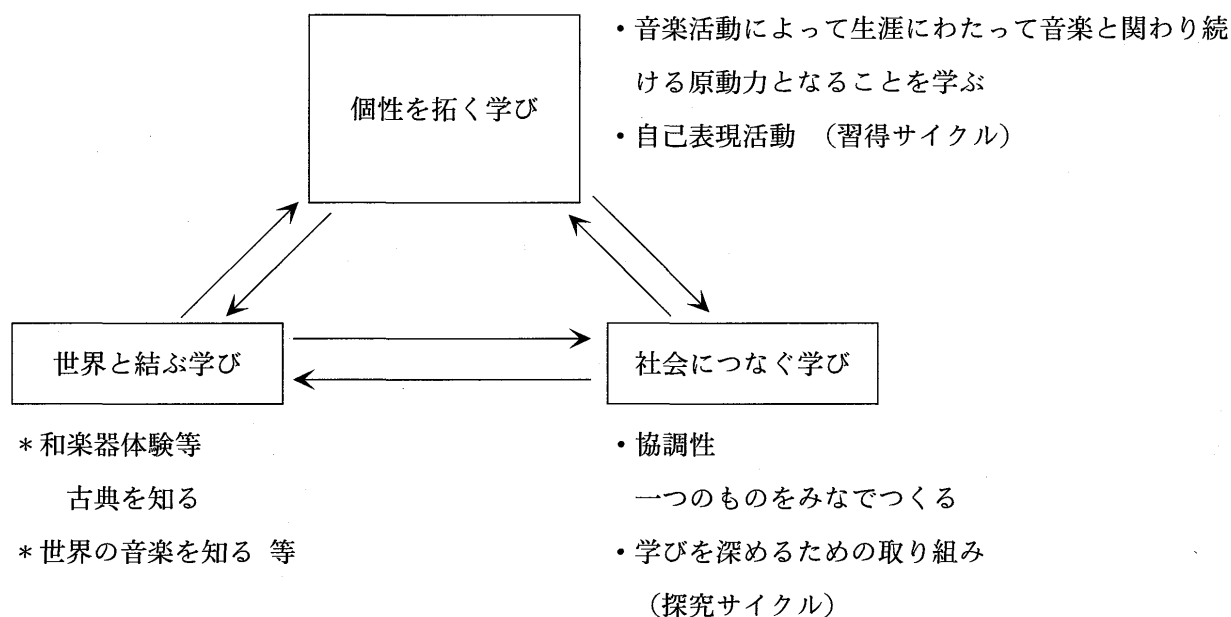
例えば、ひとつの歌を知ること、自分の思いが表現できることを知る、あるいは自分の感動した音楽をさらに追求することで、自分の知らなかった文化、歴史を知る。このようなことを通して、自己表現・文化理解・コミュニケーションのひとつの形態としての音楽を身につけさせることである。学校における学習としての音楽の取り組みは、一言で言えば、能動的に音楽に触れるということである。言い換えれば、表現手段としての音楽を身につけることである。知識・技能的なものを含めて、音楽が自らを表現する手段であることを学習を通して自覚させたい。少ない授業時間数の中で、様々なことに組み込めたいと考えている。そのために、一つ一つの具体的な課題を消化するという活動には陥ってはならない。

今年度、世界と結ぶ学び、個性を拓く学び、社会につなぐ学びに着目し、習得サイクルにおいては、音楽するための技術、曲に対する理解、表現活動といったことに個人の力を付ける支援を考えた。

また、探究サイクルにおいては、習得サイクルの成果に基づいて、学びを深める活動に取り組んだ。

すくない授業時間数の中で、様々なことに取り組みながら、学習の一つ一つが、具体的に課題を消化するという活動だけに陥らず、楽しみ、かつ音楽的な力が高まることを願っている。そして、これから生きていくうえでの心の糧となるような取り組みの成果を上げさせ、今後も音楽を通して豊かな心を育むことにつなげたい。





3. 成果と課題

成果として次の三視点から検証する。

「個性を拓く学び」→自分の音楽活動（表現活動）の技術、知識、志向（思想）

「世界と結ぶ学び」→自分の知らない音楽活動、技術……認める

「社会につなぐ学び」→「個性」が「世界」と結びついて集団を構成していくこと

これらの三視点からその成果としては、

- ・自分（個性）を相対的にとらえやすくなった。
- ・自分の向上を身近なところで実感し、認められることで効力感を得る。
- ・より幅広く、かつ、感動の実感ができた。

ことがあげられる。

しかし、課題として、その感動の根拠が曖昧になってはいないか、個に完全にフィードバックされたかどうかの検証ができていない。その感動が純粋に音楽体験によるものであるかどうか、というところまでいたっていないのが現状である。

今回の学習を例にとってみると、「個性を拓く学び」に関わるものとして、例えば、〇〇ができた！ 「世界と結ぶ学び」では〇〇を知った！ 「社会につなぐ学び」ではこんなことをやった！ これらの区分が曖昧なものになっている。

これらのことから、来年度の取り組みに必要なことは、新たな学習集団の形成をふまえて、今年、個々が身につけたもので、どのような学習集団をつくっていくか、これがひとつの課題である。その集団の目標として、より深まりを持ったものにしていくことを、今後の取り組みの柱のひとつに考えたい。

実践 必修教科 2 年生

① 題材 ～響け 世界の歌～

② 題材について

音楽科における「豊かな学び」とは、その大前提として、自分が関わった「音楽」が新たな自分の可能性を引き出すものであることを実感することであるととらえる。

例えば、ひとつの歌を知ること、自分の思いが表現できることを知る、あるいは自分の感動した音楽をさらに追求することで、自分の知らなかった文化、歴史を知る。このようなことを通して、自己表現・文化理解・コミュニケーションのひとつの形態としての音楽を身につけさせることである。

学校における学習としての音楽の取り組みは、一言で言えば、能動的に音楽に触れるということである。言い換えれば、表現手段としての音楽を身につけることである。知識・技能的なものを含めて、音楽が自らを表現する手段であることを学習を通して自覚させたい。少ない授業時間数の中で、様々なことに取り組ませたいと考えている。そのために、一つ一つの具体的な課題を消化するという活動には陥ってはならない。

今回の学習では、題材として「世界の歌」を取り上げた。

ねらいは、日常の中で触れる音楽の持つ普遍性に気づかせることである。本来、文化、言語、風土等の異なる社会で育まれたものを自分たちが受け入れることで、共通するものとしての音楽を認識する。ただ、その背後についての学びを通して、その地の文化としての歌の意味を知る。将来予想される異文化との交流を支えるコミュニケーションの推進剤になることを期待する。

このことを通して、自分たちの持つ文化の特性、他者の持つ文化の特性、この二つの通じる部分、見落としかねない部分の両側面があることを知らしめたい。この経験は、今後「世界」に視野を広げていくには不可欠であるからだ。 ⇨ 世界と結ぶ学び

習得サイクルにおいては、与えられた歌に対して、次の三点を学ぶ。

①歌唱力を高め、できるだけ正しく歌う。そのための技術の確認。(習得)

②その歌の背景にある文化(原語の響きや風土、作詞の背景)について調べ、国文化としての歌に対する理解を深める。

③ ①②を統合して、歌の表現に取り組む。 ⇨ 個性を拓く学び

探究サイクルにおいては、習得サイクル成果に基づいて、学びを深めるために、次の活動を行う。

①その「歌」について学んでいないグループに自分たちの学んだことを伝え理解させることを試みる。

⇨ 社会につなぐ学び

②その課程において、自分たちの成果を検証する。十分に満足のできる点、不十分である点を知り、そのことから課題に対する取り組みをさらに深める。

音楽を通しての異文化理解の可能性を音楽の持つ普遍性に気づかせたい。

豊かな学びを子どもたちと共に音楽の授業を通して感じ、さらにこれからの子どもたちの生活の中に音楽が生きて心を耕す糧になることを願っている。

【教材について】

教科書より「サントルチア」「夢路より」・原語で歌う世界の歌(野バラ社)「トロイカ」「ます」

高校の教科書より「野ばら」「カチューシャ」「アリラン」「草原情歌」「ロンドンデリーの歌」「おおシャンゼリゼ」「白い恋人達」「シュルブルの雨傘」「フニクリフニクラ」

③ 学習目標と評価規準

学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルカント唱法をこころがけてカンツォーネを歌う ・さまざまな国の歌を知る ・それぞれの歌に着目して、生活様式、歴史、地域の特色などと結びつけ、聴き取ることができる ・歌うことによって表現を工夫したり、背景にあるものを感じとる
評価規準	
音楽への関心・意欲・態度	①進んで活動に取り組もうとしている（原語の読み・歌唱練習・グループ活動） ②世界の音楽に関心を持ち（レポート等）意欲的に演奏、表現しようとしている ③仲間といっしょに音楽を楽しもうとしている ④音源や周りの音を聴き、表現しようとしている
音楽的な感受や表現の能力	①声の響きやその曲の特徴などを感じ取っている ②自分の感じたことを発表し、表現工夫に参加する
表現の技能	①曲の特徴を理解し、正しい音・発音・言葉・リズムで演奏するための技能を身につけている ②お互いを聴き合いながらよりよい表現を求めて演奏することができる

④ 学習計画 全9時間

学習課程	学習の中心	教師の働きかけと学びのサイクルについて	観点
カンツォーネ イタリア語	「サンタルチア」歌唱 イタリア語の読み方	イタリア語の発音、読み方を練習させる 音源の鑑賞をさせる 『習得』	関 感
世界の歌 ①	世界の歌を選択 原語の読み・鑑賞	子どもたちの興味にそった曲を選曲させる 本物を聴き、練習する 『習得』	関 感
歌唱練習 音取り・原語 ②	音源から音取りをし、原 語の読みの練習をする 原語で歌う練習をする (グループ練習)	発音や意味を繰り返し確認する その国の人になりきり雰囲気をつかむようにさせる 必ず課題を持たせ、確認させる 繰り返し練習する 『習得』『探究』	関 技
グループ発表 ①	各班より練習の成果を発 表・曲を紹介	自信を持って発表する 『探究』	関 感 技
交流練習 ③	各班で学んだ曲を紹介、 教え合って歌えるように する。課題を発見する。	自分たちの班の成果を検証させる (十分に満足できる点、不十分な点を知り、課題に対す る取り組みを深めさせる) 『探究』	関 感 技
発表・ふり返り ①	成果をふり返る	自己・他の班の発表を聴いた講評を考えさせ、ワークシ ートに記入させる 他の班に自分の意見を伝える 『探究』	関 感

⑤ 本時の目標

- それぞれの国の歌を意欲的に演奏、表現しようとする（関心・意欲・態度）（感受）
- 既習事項を見直し、自己の学びをふり返る（関心・意欲・態度）（表現の技能）
- 楽しく活動に参加する

関心・意欲・態度	意欲的に活動に取り組む 曲を演奏することに関心を持っている 積極的に教えようとしている	班での学習と全体の活動に参加している 自分の曲を練習している 学びのふり返りをしている	自己評価 相互評価 教師の観察
表現の感受・技能	音楽的に表現を工夫している 表現にふくらみを感じられる	正しい音程やリズムで演奏している 表現を工夫しようとする	自己評価 相互評価 教師の観察

⑥ 本時の展開（6時間目）

学 習 活 動	教 師 の 支 援	準備・資料
<ul style="list-style-type: none"> ○呼吸練習・発声練習 ○本時の課題を確認する ○本時の学習内容について、目当てを確認する <ul style="list-style-type: none"> ・グループで今まで学んだことを伝える ・自分の学びをふり返り、他者に伝える ○グループ発表をする ○自己評価（成果と課題を把握）をする ○相互評価をする評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の心構え、準備をする 歌声を意識する ・今までの学習内容をここに想起するだけではなく、全体的な流れをとらえるようにする ・自己の学びをふり返り、確実に自分の力をつけることができるようにする ・ねらいを持って活動にあたるようにする ・練習の過程を見て、少しだけでも発表できるようにする ・自信を持って発表できるようにする ・活動のふり返りを記述させる 	<p>ワークシート</p> <p>相互評価 自己評価</p>

⑦ 結果と考察

音楽の授業時数が減少したなかで、子ども達にできた喜びを味わわせるような音楽活動を、どのように組み立てていくかが、大きな課題といえる。

特に、歌唱指導において、いかに短い時間の中で、子どもたち一人ひとりが、自己能力感、自己達成感を得ながら、表現力を高めていくことができるか。今回の授業を通して、次の点を考察してみた。

第一に本展開例の特徴としては、数曲を一度にまとめて学習したことである。子ども達の音楽的な多様化、授業時間の少なさを考えると、ひとつひとつを詳しく多方面から学ぶことがむずかしくなってくる。したがって、特徴や歌詞の内容や曲想を工夫しながら表現することを学ぶために、数曲を同時に学習した方が有効であると考えた。

第二は、グループで活動の場を多くしたことも学習を深めることに利点があった。一人ではむずかしいと感じることもグループでの学び（社会に拓く学び）によって、幅広く学習できたのではないかと思う。

授業内容については、子どもたちの共通した感想では、「原語はむずかしい」ということであった。

しかし、様々なジャンルの音楽を聞き慣れている子どもたちは、我々教師の感覚よりも、さすがに柔軟で、範唱を聴くことによって、数回の練習で、歌うことができるようになった。やはり、原語で歌うことによって、その国の文化や風土、その他様々なことを興味を持って深めていったようである。

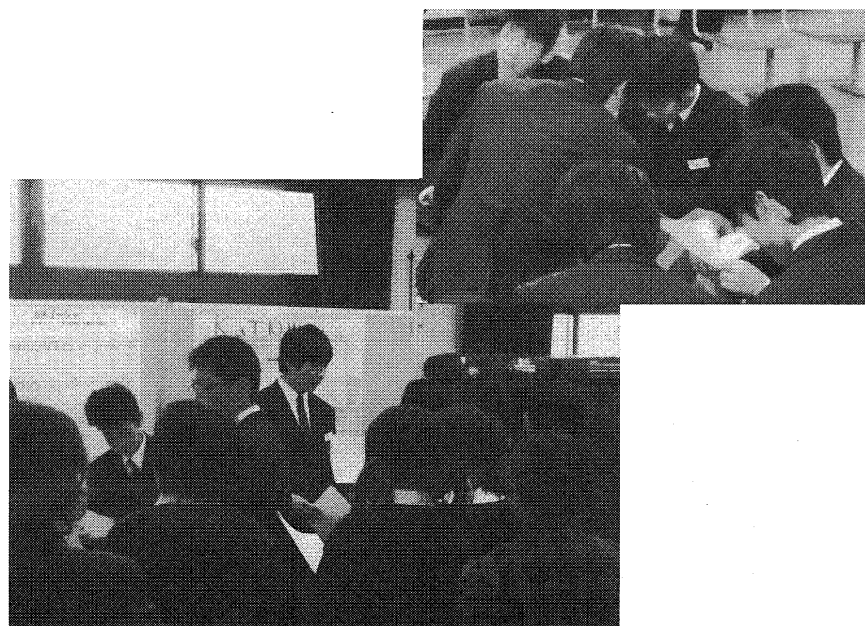
ロシア、韓国、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、アメリカといった国の歌の中で、子どもたちは「カチューシャ」が「歌いやすいから大好き」……比較的よく聞こえてきた。ただ、この曲は国の歴史や文化を知る過程で、グループで歌唱表現するより、大人数でうたった方が、より迫力があり、ダイナミックで力強さがでる、と感じたようである。こういう表現を感じることができたことも習得サイクルから探究サイクルといった学びの成果である。

また、韓国の曲を学習した子どもたちは、外部の専門家の方々に指導していただくなど、自分達だけで行動し、学びを広げ深めていくことができた。習得サイクルにおける学びがこういうところにもあらわれたと考える。

第三に、探究サイクルにおいて、習得サイクルの成果に基づいて、学びを深めるためにちがうグループに自分の学んだことを伝え、理解させることを試みた。

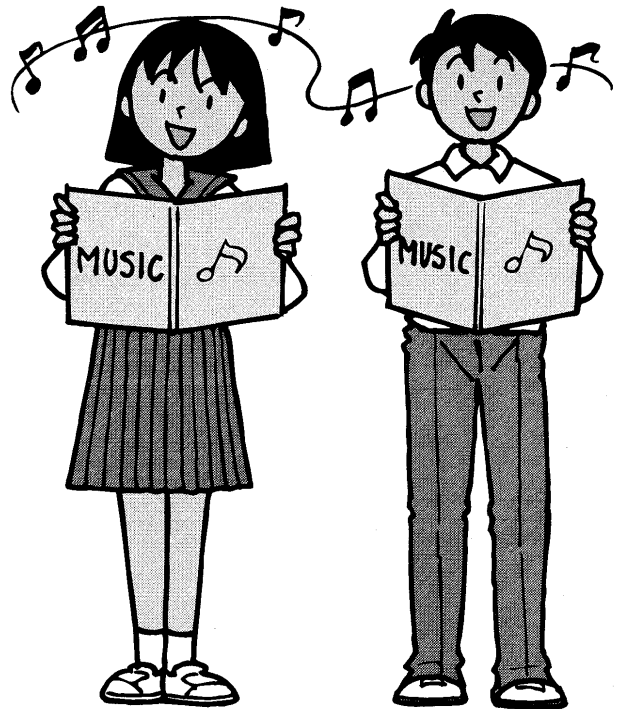
その過程で、自分達の学習の成果を検証し、十分に満足のできる点、不十分である点を知り、そのことから課題に対する取り組みをさらに深めることができたようである。

今回、授業の組み立て方に、再考の余地があり、反省する点も多々ある。準備に時間がかかりすぎたり、内容を欲張りすぎたという点である。これをふまえ、授業の方法や、個人、グループへの適切な助言や、支援、評価場面等、改善を図らねばならないと考える。



「世界の歌」練習記録表

年 組 番 氏名		
演奏曲 国名		
メンバー氏名		
目標・課題		
練習記録（練習内容は必ず書くこと。例えば、○音源を聞きまくる○ピアノに合わせて歌う○発音の練習・言葉の読む練習等。それが書けたら、できるようになったこと、楽しかったこと、気づいたこと、次の課題等を記入しよう。）		
／		
／		
／		
／		
／		



「世界のうた」

2年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

月日	班活動での班長からの指示	自分が発言した内容	全体の活動

班活動を自主的に活用するためには……課題を見よう

自分の学習を確かめるものにするために

～グループどうして教えあひしよう～

- そのために あなたはどんな方法でおしえてあげますか？
グループの中でどんなことを担当できますか？
ぐるーぶでどんなほうほうをとりますか？
具体的に考えて指導計画表を作成して下さい。

【蜜汁！世界の歌！グループ交流計画表

「世界のうた」

2年()組()番 氏名()

月日	班活動での班長からの指示	自分が発言した内容	全体の活動
11/1	・日本語の歌詞を覚ろう	はやく覚えて(まおう!!)この曲を	日本語で曲を歌った
11/8	・フランス語がないから、		

班活動を自主的に活用するためには………課題を見よう

自分の学習を確かめるものにするために

～グループでどうして教えよう(？)～・教え合いをしよう～

○そのために あなたはどんな方法でおしえてあげますか？
グループの中でどんなことを担当できますか？
ぐるーぷでどんなほうほうをとりますか？
具体的に考えて指導計画表を作成して下さい。

【習け！世界の歌】グループ突進計画表

1. ほくたちが教える歌はフランスの「おおシャンセ」という曲です。この歌は、ビールのCMにも使われているので、曲を一度聞くと、みんなもわかると思います。この曲はあかなくて、楽しい歌なので、暗い感じにならず、鼻で歌って下さい。お、ほくたちが1回歌います。歌詞をよく見て、聞いて下さい。
2. もう1回歌います。「シャンセ」の後は一緒に歌って下さい。
3. まず「シャンセ」の後は3人分ずつで歌って、リズムをつかんで下さい。(2～3)
4. リズムがつかめてきたようなので、はじめの音階(サマデ)をフランス語で歌います。ほくたちと一緒に歌います。(何度もかかす)
5. サマデの部分ができてきたようなので、この部分が最後を歌います。少し難しいですが、これほくたちと一緒に歌います。(何度も)
6. 「シャンセ」からの後ができてきたので、1回通します。これもほくたちと一緒に歌います。(4～5)
7. たいへんできてきたので、ほくたちをぬいて、歌って見ます。(4～5)
8. これで完結にできました。最後にもほくたちと一緒に歌います。

よろしくおねがいします

「世界のうた」

2年()組()番 氏名()

月日	班活動での班長からの指示	自分が発言した内容	全体の活動
11/1	・大きな声で歌う ・日本語で歌えるように	・フランス語はややこしくて難しい ・フランスの街はにぎやかそう	・日本語で歌った ・音ひをとった
11/8	・1番だけ歌えるように ・大きな声で	・「シャンセ」通りは楽しそう ・イメージがある ・フランス語を聞き取るのも難しい	・フランス語を聞き取り、少しでも歌えるように練習した ・1番だけ歌った
11/15	・フランス語で歌う	・フランス語、とても難しい…… ・歌っていると楽しくなる ・お、ほくたちの意見をもとに書けるといいね。	・フランス語を覚えて、フランス語で歌う

班活動を自主的に活用するためには………課題を見よう

自分の学習を確かめるものにするために

～グループでどうして教えよう(？)～・教え合いをしよう～

○そのために あなたはどんな方法でおしえてあげますか？
グループの中でどんなことを担当できますか？
ぐるーぷでどんなほうほうをとりますか？
具体的に考えて指導計画表を作成して下さい。

【習け！世界の歌】グループ突進計画表

＊方法＊

- ①まずはCDを使って曲を聞いて、フランス語を聞き取る。
・大体で良いから、フランス語を聞き取る。
★聞き取れた！は、できていない人に教えてあげる。(皆で教え合う)
- ②実際にフランス語の歌詞を見て、歌ってみる。
・まずはフランス語の歌詞を覚える。
・大体できてきたら曲に合わせて歌ってみる。
★リズムや歌詞、分からないところがあれば分かる人に教えてもらう。
- ③皆で曲に合わせて歌う。
★大きな声を出す、強弱のばすところなど皆でアドバイスをしながら歌う。
・フランス語、ばい、雰囲気を出しながら歌う。
・皆で合わせる!!
- ④最終チェックをして、皆で歌う。
・分からないところなどは、お、ほくたちにチェックする。
・あればもう一度確認する。
・できるだけ歌詞を見ずに歌えるように覚える!!
→歌詞を見ながらだと、声がいさくなってしまふ。

実際に練習した
お、ほくたちの意見をもとに
メモした

「世界の歌」練習記録表

年	組	番	氏名
演奏曲 国名	韓国 朴田		
メンバー氏名	飯田、宮坂、恩賀、新井、井伊、白方		
目標・課題	11/27まで韓国語の歌詞を覚える		
練習記録 (練習内容は必ず書くこと。例えば、○音源を聞きまくる○ピアノに合わせて歌う○発音の練習・言葉の読む練習等。それが書けたら、できるようになったこと、難しかったこと、気づいたこと、次への課題等を記入しましょう。)			
10/29	音源を聞きまくる アリソン10回 同様に ソングブックを 3回 ソングブックを 3回		
11/1	韓国語、韓国語 歌を覚える MDを聞く		
11/8	歌と歌い方 大田のこと		
11/9	歌を覚える 5回に歌を覚える		
11/15	歌を覚える 前よりスムーズに歌えること ができた 練習したみたい あは。		

1. 韓国語の歌詞を覚える
2. 韓国語の歌詞を覚える
3. MDを聞く

- ① 音を聴く時には必ず班で課題をもつこと
- ② 歌を歌う時は必ず立って歌うこと
- ③ 聴きながら学習する時は机の上に立って聴く
- ④ 班学習の時はしゃべりながら聴く

年	組	番	氏名
演奏曲 国名		フランス (おお シャンゼリゼ)	
メンバー氏名		天仁美・小栗千優理 高垣ともひる・(は)田航一・福元瑞軌	
目標・課題		記録は—!!	
練習記録 (練習内容は必ず書くこと。例えば、○音源を聞きまくる○ピアノに合わせて歌う○発音の練習・言葉の読む練習等。それが書けたら、できるようになったこと、難しかったこと、気づいたこと、次への課題等を記入しましょう。)			
10/29	<p>音源を聞きまくる (初めて聞きたたか ら、最初は聞き取れ ないけど、今は聞き 取れるようになった)</p>		
11/1	<p>○班で、ちゃんと原語 を歌えるようになる ・大きな声で元気に 歌う</p>		
11/8	<p>原語をCDから聞 きながら歌う ・原語を聞きながら 歌う</p>		
11/15	<p>フランス語で歌う (ゆくりと、ていねい に上手に歌えるまで)</p>		
11/22	<p>あと2日で研究授業です。 原語を出来るだけ覚えて歌えるよう に家で練習します。</p>		

「世界の歌」練習記録表

年	組	番	氏名
演奏曲 国名	ロシア・ソビエト連邦 アイリス・ソビエト		
メンバー氏名	岡崎 幸子 楠戸 山路・本島 田山		
目標・課題	記録は—!!		
練習記録 (練習内容は必ず書くこと。例えば、○音源を聞きまくる○ピアノに合わせて歌う○発音の練習・言葉の読む練習等。それが書けたら、できるようになったこと、難しかったこと、気づいたこと、次への課題等を記入しましょう。)			
10 / 29	原語で歌う ・原語で歌う ・原語で歌う		
11 / 1	原語で歌う ・原語で歌う ・原語で歌う		
11 / 8	原語で歌う ・原語で歌う ・原語で歌う		
11 / 15	原語で歌う ・原語で歌う ・原語で歌う		

1. MDをきくときは必ず課題をもつこと
2. 立って歌うこと
3. きくときは机に座る
4. 机の上には入るときは必ず机をよける

「世界の歌」練習記録表

2年	組	番	氏名
演奏曲 国名	韓国・中国 アリソン		
メンバー氏名	飯田・田中・宮坂・恩賀・新井・井伊・白方		
目標・課題	中国の発音を理解する。つぎは韓国語に挑戦!!		
練習記録 (練習内容は必ず書くこと。例えば、○音源を聞きまくる○ピアノに合わせて歌う○発音の練習・言葉の読む練習等。それが書けたら、できるようになったこと、難しかったこと、気づいたこと、次への課題等を記入しましょう。)			
10/29	アリソンMD10回 中国MD3回	実際にMDに聞くと中国語はとて 早かったことと、歌はたががオカシイ。 韓国はもう少しで歌うので歌うよ!!	
11/1	・原語で歌うようになった MDを聞く	一応韓国語は全て歌えるようになった 中国はもう少し分かんない。 何とかながらうとする。	
11/8	MDを聞く	韓国語はうやく歌えるようになった。 中々うやく行動できた。 すばい!!	
11/9	・原語 ・他MDに歌える	他の人があまり音もなかつたから あまり進まずかった。 中々うやく行動できたから、	
11/15	相手が歌に歌える	前よりは相手に歌えることができた 前よりスムーズにできた ↓ 自信ある!!	

- ① 記録は—!!
- ② 中国語の発音を理解する
- ③ 韓国語の発音を理解する
- ④ 中国語の発音を理解する

2年生 音楽【世界の歌を響かせよう】

2年()組(番 氏名(

[illegible]

2年生 音楽【世界の歌を響かせよう】

2年()組()番 氏名()

国名【フランス】

自然
 ワインがひとし有名人フランスでは、ブドウ栽培がさかんにおこなわれて
 います。また、その他にも小麦、トウモロコシもさかん栽培されてい

文化
 絵画や音楽、ファッションの分野で数世紀の間世界をリードする地位
 にあるといわれており、近年においてもファッションにおいてはイタリ
 アと並び世界をリードする地位にある。また、長年芸術面で世
 界をリードする地位にあることからパリを中心に多くの諸外国の芸術
 家やクリエイターを引きつけている。

産業
 フランスの生産量はイタリアと1位を競いあうほどとても有名
 です。また、農業だけでなく、重化学工業も発展し、
 石炭や鉄鉱石、ボーキサイトを産しています。特に、鉄
 鉱石はヨーロッパ最大で、ドイツに次いで、ヨーロ
 ッパ第二位の工業国でもある。フランスは、フォルク
 シェやトリュフも有名である。

フランス語由来の外来語
 フランス語由来の外来語は、芸術、服飾、料理、製菓、哲学の分
 野に多い。近年、英語由来の外来語に押され消えていく語
 (例:仏語「アバック」→英語「カッパル」)がある一方、雑誌などでは
 多くの日本語使用者にとって意味の分かる英語ではなく、なじみの薄
 いフランス語を使用して新鮮なイメージを持たせようとする傾向(例と
 らば、ロゼ、ロゼリカ、ロゼリカ)が見られ、これから外来語として定着する

2年生 音楽【世界の歌を響かせよう】

2年 () 組 () 番 氏名 ()

国名【ロシア トロイカ】

1

～ロシア～

ロシア連邦

面積 1,708万km²

人口 14,549万人

首都とその人口 モスクワ 830万人

ロシア連邦の面積は世界最大、気候は寒い地域です。

Вот мчится тройка почтовая
тройку Россия民謡

トロイカはロシアの有名な民謡です。

ロシアの歌詞☆

ほら、駅馬車トロイカが走ってゆく
冬の母なる大地に沿って。
御者はもう歌い始めよう
ヤリに鞭を振っている

“何を考えふだ、若い？
君は愛想くさすおねえ
いかに悲しいかあるの？
話してごらん、誰かお慰めをくれか？”

“あやさいな女様、親切な女様、
わんが恋をしてはやー年、親切なワグネル
の年寄りがサガミウのはやさいな女様。

あやさいだよ女様、老なくワグネル
をけんがの娘はもうわんがのそでない。
親切なわんがの娘を僕に全部にならよ
あの娘に集い、日本人かもしない。

(以上略)

どうして日本の歌詞は明かに感じ
ながら暗いメロディーなのかと
知って、調べてみると、日本では
知られていないトロイカの楽団カチュー
シャ訳詞は、実は別の歌「トロイカは
走れ、トロイカは翔ぶ」(ガゼムスキー
詞・プーボフ曲)のものですよ。

恋ムに会うためにトロイカを走
らせる歌者の喜びの歌です。
だから日本の歌詞は明るいけれ
ど、新訳は元の歌詞をから、
暗いメロディーがっています。

2年生 音楽【世界の歌を響かせよう】

2年()組()番 氏名()

国名 イタリヤ

【フネクリ・フネクラ】

●直訳した歌詞

①赤い犬を吹くあの山へ登ろう 登ろう
そこは地獄の金の中 覗こう 覗こう
登山電車ができたのを 誰しも登れる
流れる雲は招くよ みんなを みんなを
行こう 行こう 火の山へ
行こう 行こう 火の上
フネクリフネクラ フネクリフネクラ
誰も乗る フネクリフネクラ

②暗い夜空に赤々と見えるよ 見えるよ
あれは火の山グェスグェス 火の山
火の山
登山電車が降りてくる 麓へ 麓へ
燃える炎は空に映え 車輪が輝く
行こう 行こう 火の山へ
行こう 行こう 火の上
フネクリフネクラ フネクリフネクラ
誰も乗る フネクリフネクラ
※繰り返し

○フネクリ・フネクラの由来

グェスグェス山の頂上まで観光客を運ぶ登山電車として、1880年に作られたケーブルカーの客車を目的にツェッパが依頼されて作られたCMソング。

●イタリアの自然

○イタリアの気候は、温暖で日本の様に四季の区別がはっきりしている。冬には雨がが多い。

●イタリアの文化

- イタリア民謡に「帰れソレントへ」、「サンタルチア」、「黒ねのタンゴ」があります。
- イタリアの有名なピオ・オロ・ジュリアにいう人がいます。この人は、宝飾ブランドの名前になった人です。

○イタリアの生活

- イタリアの国民の約97%がキリスト教(カトリック)です。その他にはキリスト教(プロテスタント)、ユダヤ教、イスラム教、仏教があります。
- イタリアの主要産業は機械繊維、自動車、鉄鋼

ー感想ー

イタリアを調べると、イタリア民謡の曲は、とても親しまれている曲が多いことがわかりました。イタリアの雰囲気があるような曲になっている感じがしました。

イタリアの国旗